

施策番号	2304		
施策名	環境に配慮され、だれもが使いやすい建築物の誘導		
概要	建築物の総合的な環境性能を評価するシステムに京都独自の基準を組み込んだ制度（CASBEE京都）の活用や、建築物バリアフリーに関する制度の見直しを行うことなどにより、環境に配慮され、だれもが使いやすい建築物への誘導を図る。		
担当局・部室	都市計画局・建築指導部	共管局・部室	
上位政策	23 建築物		
施策に関する 主な分野別計画等			

施策の評価

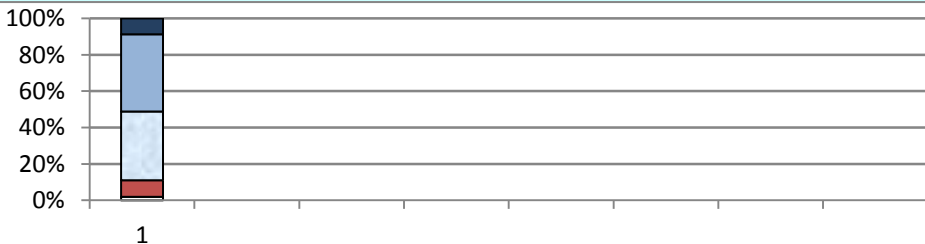
1 客観指標評価

指標名		23年度	24年度	25年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウェイト
1	CASBEE京都の届出件数(件)	-	a	74	109	163	66.9%	b	1.00
2	バリアフリー優良建築物の件数(件)	a	e	357	434	500	86.8%	a	1.00
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		a	c	客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価

*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		25年度回答					有効回答者数	評価
		そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない		
1	バリアフリー化された建物が増えている。	45	219	195	47	10	516	b
		8.7%	42.4%	37.8%	9.1%	1.9%		
2	-							-
3	-							-
4	-							-
5	-							-
		市民生活実感調査総合評価						b



- そう思う
- どちらかと言うとそう思う
- どちらとも言えない
- どちらかと言うとそう思わない
- そう思わない

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

A	施策の目的が十分に達成されている					
	重み付け	☒ 客観指標	a	☐ 市民の実感	b	
(重み付けの理由) 環境配慮建築物やバリアフリー化した建築物は一見しただけでは判断しにくく、市民の実感に反映される要素が薄い。						24年度 C
(原因分析) ・景気の動向から、住宅用途で着工件数が緩やかに増加していることに伴って、CASBEE京都の届出件数が昨年度と比べて増加したものの、目標値には届かず、b評価となった。 ・平成24年度は、バリアフリー対象建築物の協議件数が増加傾向にあったことから、検査受検件数も増加し、検査済証交付件数が77件増加したためa評価となった。 ・バリアフリー化された建築物が増えつつあり、市民の実感にも反映されていると考える。						23年度 A

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		25年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		24年度 決算額	25年度 予算額		
1	建築協定支援事業	11,314	11,407	普通	都市計画局
2	CASBEE京都の普及啓発	18,973	6,410	良い	都市計画局
3	京町家に係る法規制の合理化に関する調査研究	17,827	17,827	—	都市計画局
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

・平成23年度から運用を開始したCASBEE京都や、従前から実施しているバリアフリー整備の誘導について、その考え方や必要性が市民に理解され、社会的に定着したものとなるよう、「京（みやこ）環境配慮建築物」顕彰制度や、みやこユニバーサルデザイン優良建築物顕彰制度の取組など、パンフレット、ホームページ等を通じて、周知や啓発に努める。

施策名	2304	環境に配慮され、だれもが使いやすい建築物の誘導				
-----	------	-------------------------	--	--	--	--

指標名	CASBEE京都の届出件数（件）					
-----	------------------	--	--	--	--	--

担当課	建築審査課	連絡先	2 2 2 - 3 6 1 6			
-----	-------	-----	-----------------	--	--	--

1 指標の説明

京都らしい環境配慮建築物を適切に評価・誘導するための京都独自のシステムとして新たに定めた基準（CASBEE 京都）の届出件数

2 指標の意味

CASBEE京都は、建築物の環境への配慮の程度を評価する仕組みであり、建築主の環境への意識の現われを示す指標

3 算出方法・出典等

京都市地球温暖化対策条例（事業担当課調べ）

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	23年度	24年度		数値	根拠	達成度
数値	74	109	35件増	163	単年度目標値については、平成32年度目標値を達成するための増加率を勘案して年度ごとに割り戻したものである。	66.9%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値		1,000件	32年度	10.9%	適用義務の将来的な拡大と任意提出の見込数の合計をこれまでの確認申請の傾向から推定

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：80%以上
b：60%以上～80%未満
c：40%以上～60%未満
d：20%以上～40%未満
e：20%未満

6 基準説明

当該指標については、景気動向等による建築物の着工件数の影響が大きいことから、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

23	24	25
-	a	b

1 指標の説明

バリアフリー化された建築物（施設）の件数

2 指標の意味

「ひとにやさしいまち」に向けた進み具合を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：京都市建築物等のバリアフリーの促進に関する条例に基づく検査済証交付件数
出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	23年度	24年度		数値	根拠	達成度
数値	357	434	77件増	500	過去の建築確認申請の動向等から、条例対象となる建築物を拡大した後の件数を推計	86.8%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値		500	32年度	86.8%	過去の建築確認申請の動向等から、条例対象となる建築物を拡大した後の件数を推計

5 評価基準

最新数値と前回数値との比較
a：10件以上の増加
b：4件～9件の増加
c：3件の減少～3件の増加
d：4件～9件の減少
e：10件以上の減少

6 基準説明

これまでのバリアフリー条例に基づく検査済証交付件数の推移を基に、評価基準を設定。

7 評価結果

23	24	25
a	e	a